

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
国際理工情報 デザイン専門学校		平成3年3月26日	竹井 透		〒263-0024 千葉県千葉市稲毛区穴川3丁目8番11 (電話) 043-252-1920		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 国際理工学園		平成3年3月26日	理事長 竹井 透		〒263-0024 千葉県千葉市稲毛区穴川3丁目8番11 (電話) 043-252-1920		
目的	建設業界では未来を担う技術者が不足している。建築設計科では、企業・団体と連携し今後の建設業界を担う実践的かつ専門的な能力を有した技術者を育成することを目的とする。2年間のカリキュラムを通じて、設計から施工についての専門知識・技術習得を目指す。また、企業・団体と連携を図り、実習科目も含め、法規、計画、構造、施工等の体系的な最新知識や技術も学ぶ。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
工業	専門課程(工業)		建築設計科		平成15年2月19日 文部科学大臣告示 第19号	-	
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1792	1120	608	64	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
160人		199人		9人	2人		11人
学期制度	■前期:4月11日～9月21日 ■後期:9月26日～2月24日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 テスト評価・授業態度・出席率・課題提出状況。通年評価を行う。		
長期休み	■学年始:4月1日～4月8日 ■夏季:7月25日～9月1日 ■冬季:12月26日～1月5日 ■学年末:2月27日～3月31日			卒業・進級条件	授業科目の全習得		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 通常カリキュラム時間外にて対応			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動を中心として実施 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 建築・インテリア・土木業界等 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 53.6% ■その他 卒業者のうち30名は建築士専攻科に内部進学 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	一級建築士受験資格(実務4年)、二級建築士受験資格(実務0年)、一級建築施工管理士受験資格(実務5年)、二級建築施工管理士受験資格(実務2年)、福祉住環境コーディネーター検定試験、CADトレース技能審査建築部門、建築CAD検定、色彩検定、宅地建物取引士、測量士補、リビングスタイリスト、照明コンサルタント等		
中途退学の現状	■中途退学者 11名		■中退率 6.3%				
	平成27年4月1日 在学者 175名		(平成27年4月1日 入学者を含む)				
	平成28年3月31日 在学者 164名		(平成28年3月31日 卒業者を含む)				
■中途退学の主な理由							
進路変更、経済的理由、学習意識の欠如							
■中退防止のための取組							
電話連絡、本人面談、三者面談、家庭訪問等							
ホームページ	http://www.itc.ac.jp/						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

1. 教育課程編成委員会の目的

建設業界は担い手が不足している業界であり、必要とされる知識技術も少しずつ変化している。このように変化している業界における人材の専門性に関する知識、新たに必要となる実務に関する技術などを十分に把握、分析した上で当該専門課程の教育を施すに最もふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善工夫等を行うために教育課程編成委員会を設ける。

2. 教育課程編成委員会の構成

編成委員会は学校長、教務責任者、及び当該学科の専攻分野に関する企業等(以下「企業等」という)から学校長が依頼する委員により構成される。委員の任期は、1年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合には補欠委員を依頼し残りの前任者任期を依頼するものとする。次年度委員は本人意思を確認し再任することができる。

3. 教育課程編成委員会の運営方法

編成委員会の委員長には学校長が就任する。委員長は会務を統括し編成委員会を運営する。委員長に事故があるとき、又は、委員長が何かの理由にて欠席したときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。編成委員会は必要に応じ委員以外の者に出席を求めることができる。

学校側委員は企業等委員に対し現行のカリキュラム・科目・授業方法を説明するなどして、十分な情報提供に努める。編成委員会は全委員企業からも積極的に情報を収集し、さまざまな角度からの意見を踏まえて議論を行うものとする。

4. 教育課程編成委員会検討結果の活用

教育課程編成委員会の検討結果については、学内に於いて該当学科教員・講師により十分に検討し、有効な方策に関してはこれを採用し、速やかに授業科目の開設または授業内容・方法の改善を行い、教育内容の質の保証と向上に努めるものとする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名前	所属
小松原 学	職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会富士教育訓練センター
内田 浩	一般社団法人構造調査コンサルティング協会会員 株式会社計画技術研究所
小田切 公司	清水建設株式会社千葉支店総合生産センター
三留和人	新日本建設株式会社
山村 芳則	鶴沢建設株式会社
田中 明夫	株式会社千都建築設計事務所
草野高明	株式会社新昭和
竹井 透	国際理工情報デザイン専門学校 学校長
勝 康雄	国際理工情報デザイン専門学校 学科長
加藤 貴久	国際理工情報デザイン専門学校 副学科長

(開催日時)

第1回 平成28年7月4日 10:00～13:00

第2回 平成29年2月17日 10:00～13:00予定

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

1. 企業等との連携による実習・演習等の目的

建設業界で必要とされる知識技術を習得する為に、建物を造る仕事の流れや、住宅の構造の仕組み・建築材料・デザインなど実務に則した総合的な建築設計を学ばせる。

また、学生各自のコンセプトを図面、表現ツールを駆使して企業等に対してプレゼンテーションさせることで、専門知識だけでなく発信力・説得力・構成力・発想力・表現力などのコミュニケーション力の向上をはかる。

2. 企業等との連携による実習・演習等の運営

・「施工実習」では、建築物の生産に関わる工程・品質・安全・コスト等の管理を学び、富士教育訓練センターにて3泊4日の建設集中実習を行う。各実習ごとに指導教官より講評を頂く。

・「卒業制作」では、テーマに応じたオリジナルの建築設計作品を提案し、学生各自のコンセプトを図面、表現ツールを駆使して企業等にプレゼンテーションする。そのプレゼンテーション発表会を実施し、聴講した企業の講師から講評・評価を受け、更なる改善・工夫の助言等を得る。

この際に学科教員・講師により企業等から指摘された点の改善が行われているかを確認・指導する。

3. 企業等との連携による実習・演習等の評価

連携する企業担当者等が学生に対し評価を実施する。本校教員はこの評価をもとに、成績評価を行う。

科目名	科目概要	連携企業等
施工実習	建築物の生産に関わる工程・品質・安全・コスト等の管理を学び、建築工事の仕事の流れや専門用語等を総合的に学習する。富士教育訓練センターにて建設集中実習(1年次)を行い、建設業の実践的な職業訓練を経験させる目的がある。	職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会 富士教育訓練センター
卒業制作	これまで学んだ建築学の集大成として、学生がテーマに応じたオリジナルの建築設計作品を提案し、各自のコンセプトを図面、表現ツールを駆使してプレゼンテーションする。建築空間デザインの構成力・発想力・表現力など、建築設計力を向上させる目的がある。	一般社団法人構造調査コンサルティング協会会員 株式会社計画技術研究所、清水建設株式会社千葉支店総合生産センター、新日本建設株式会社、鶴沢建設株式会社、株式会社千都建築設計事務所、株式会社新昭和

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

1. 推薦学科の教員に対する研修・研究の目的

就業規則第4条及び「教職員の教育・研修に関する細則」に定められている通り、教員の質を一定以上に保つことと技術の向上のために、業界で使用されている標準技術、最新技術等を教員が直接企業等から学ぶ研修と、教員・講師の授業技術の向上・指導技術の向上を目指し研修を毎年度教員・講師のスキル状況に合わせて適宜受講させる事とする。

2. 推薦学科の教員に対する研修・研究の運営

研修については本校の所属する学校法人による研修と、外部研修を適時組み合わせ実施する。教員・講師は研修に参加した際には報告書を作成し提出する。また、その研修内容について学科内にて報告会を実施するなどして学科内教員・講師の情報共有を実施している。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名前	所属
内山 盛一郎	秩父産業株式会社
青木 敦	株式会社計画技術研究所
丸山 一彦	日本クリエイター育成協会
本橋 直大	卒業生
池田 銀蔵	保護者または地域関係者
大友 博	保護者または地域関係者

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.itc.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.itc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(専門課程(工業)建築設計科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ビジネス講座	社会人として必要な知識について、具体的に学習し、習得する。	1通	96		○			○		○		
		○	国際コミュニケーション	マレーシアにて、国際コミュニケーションを実施する。	1前	64		△	○			○	○	△	
○			建築計画各論	建築計画の進め方を学び、建築設計の基本となるプランニングの知識を学習する。	1通	64		○			○		○		
○			都市計画	都市生活の健全な発展をめざして、各種施設の秩序ある整備を図る総合的計画を学習する。	2前	32		○			○		○		
○			福祉住環境	少子高齢化社会に向けた、建築に求められる機能・実用・ユニバーサルデザインなどを学習する。	1通	64		○			○		○		
○			建築史	建築の歴史をさかのぼり、様式・地域・時系列別に歴史的建築物と併せて学ぶ。	1前	32		○			○		○		
○			建築環境工学	居住空間に必要とされる熱環境、空気環境、音環境、光環境などの分野について学習する。	2前	32		○			○		○		
○			建築設備	人の生活のライフラインである、空気・水・電気・ガスなどの建築における役割・設計・工事について学ぶ。	1後 2前	64		○			○		○		
○			建築法規Ⅰ	建築する上で、遵守しなければならない建築基準法を中心とした関連法規について総合的に学習する。	1通 2前	160		○			○		○		
○			構造力学Ⅰ	構造物が荷重を受けたときに生じる応力や変形など知るために、理論的に力の流れを解析する。	1通 2前	96		○			○		○		
○			建築一般構造Ⅰ	建築物の代表的な構造形式の原理と特徴を学び、構造設計の概要を学習する。	1後 2前	64		○			○		○		

○		エクステリア デザイン	外壁や庭園などを含む建築物の外側全体の設計・工事管理に関する専門知識と技術を身に着ける。	2 前	32		○	△		○		○			
○		コンピュータ 演習	Windowsの表計算ソフトであるExcelの基本操作から応用まで学ぶ。	1 前	32				○		○		○		
○		建築模型実習	木造建築の模型制作を通し、標準的な在来軸組工法を学ぶ。柱・梁、筋交いを立体的に確認し理解する。	1 前	32				△	○	○		○		
○		卒業制作	建築学の集大成として、テーマに応じたオリジナルの作品を作り、プレゼンテーションする。	2 後	96				○		○		○	△	○
○		施工実習	鉄筋コンクリート工事・鉄骨工事・コンクリートブロック工事・木工事までの主な現場作業の流れ・工法等を学び、研修センターで確認する。	1 後	32		△			○		○	○	△	○
	○	建築士実技対策	2級建築士の実技試験に対応したエスキース・手描き製図のテクニックを学習する。	2 前	64					○		○		○	
	○	パースペク ティブ	線遠近法を用いた透視図の原理と描き方の作図法を学習する。	2 前	32					○		○		○	
	○	家具デザイン	RC造の低層集合住宅を想定して、収納家具やテーブル・椅子、照明器具等のインテリアエレメント全体のデザインを学びます。	2 前	32					○		○		○	
合計		28～29 科目			1792単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学則に定める要件を満たす科目、単位を修得し、かつ判定会議において認定したものを卒業とする。		1 学年の学期区分	前後期
		1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。